

# 文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (コ01)

**研究組織** 金井健、松浦一之介、藤澤綾乃、柄澤真子(以上、文化遺産国際協力センター)、境野飛鳥(客員研究員)

**目的** 海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。国際情勢に鑑みつつ優先度の高い国の文化遺産保護関連の法令について条文を和訳し、法令集として刊行する。また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果をインターネットなど多様な媒体を通じて国内外に情報発信する。

## 成果

- 文化遺産保護に関する情報の収集及び発信のため、以下の国際会議及び研修に参加した。
  - 2022(令和4)年9月1日～30日 ACCU奈良：文化遺産の保護に資する研修2022—木造建造物の保存と修復—(オンライン)
  - 2022(令和4)年9月21日～22日 ICCROM・IUCN：世界遺産条約50周年記念・世界遺産リーダーシップフォーラム2022(ノルウェー)
  - 2022(令和4)年10月27日 文化庁：令和4年度文化的景観保護実務研修会(東京)
- ドイツの文化遺産保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、連邦政府の文化外交担当者に依頼した同国の記念物保護関係法制の概説を含む『各国の文化財保護法令シリーズ[27]ドイツ』を刊行した。  
 次回の法令収集・分析及び翻訳の対象国としてオランダを選定し、オランダ文化遺産庁へのインタビューやドイツを含む文化遺産保護の状況確認等を目的とした現地調査を行った。(現地派遣：2023(令和5)年3月3日～13日)
- 例年行っている「世界遺産研究協議会」については、文化財としての「景観」をテーマに開催し、昨今の世界遺産を取り巻く動向等について関係自治体等との情報共有を図った。(2022(令和4)年12月26日)

## 発表

- KANAI Ken: Action on Priorities: in the case of Japan, World Heritage Leadership Forum 2022, 50th anniversary initiative of the World Heritage Convention-Future of Capacity Building for our Shared World Heritage- 22.9.21
- 松浦一之介：「景観としての世界遺産：範囲設定とその根拠法」 令和4年度世界遺産研究協議会 22.12.26

## 刊行物

- 『各国の文化財保護法令シリーズ[27]ドイツ』 23.3
- 『令和4年度世界遺産研究協議会 文化財としての「景観」を問いなおす』 23.3



世界遺産リーダーシップフォーラム2022 グループプレゼンテーション



世界遺産研究協議会パネルディスカッション